

あの夏の絵

福山啓子 Ⅱ 作・演出

被爆から70年。
記憶を伝え残すために語り始めた被爆者と、
それを受けとめ、絵に表現することに挑んだ高校生たちの
2015年夏の物語。
同年12月に初演し客席を
感動の渦に巻き込んだ作品が、待望の全国公演に!

被爆者の集会で、初めて広島市立基町高校創造表現科の生徒による「原爆の絵」を見た時は、「被爆者の描いた絵?」と思いました。それほど迫力に満ちた絵でした。どうしてこのような絵が描けるのか、というのが取材を始めるきっかけでした。その後現地へ何度も伺う中で知ったのは、半年をかけて被爆者から被爆前後の経験とその後の人生まで丹念に話を聞き、現場へ足を運び、資料を調べ、繰り返し被爆者と話し合い、時には涙しながら、悪夢を見ながら、「被爆者の手になって絵を描こう」と真摯に向き合う高校生たちの姿でした。そうして「絵を描いたこと」を語ることで高校生たちがみずから新たな語り部となっていました。

記憶を語り継ぐ—その輪の中に、皆様とともに加われたいと願っています。

福山啓子

(ふくやまけいこ)

東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒。1980年入団。文芸演出部所属。
2006年初演の「博士の愛した数式」で脚本・演出を担当、児童福祉文化賞(厚生労働大臣賞)を受賞。その後、「野球部員、舞台上に立つ」で脚本・演出、「田畑家の行方」で演出を担当。2017年5月「梅子とよっちゃん」を書き下ろす。



青木力弥



藤井美恵子



秋山亜紀子



林田悠佑



傍島ひとみ



前田みどり

〈出演〉

CAST



初演の
反響より

「被爆者のいちばん近くにしながら、被爆二世・三世の私たちは「継承」の方法に戸惑っていました。この作品は大きなヒントと勇気を与えてくれました。」(機関紙「被団協」山田みどり氏)

「言葉が絵を生みだす一方で、絵が記憶を掘り起こし、掘り起こされた言葉が絵をさらに精密にしていける。世代を越えた人々が、過去の真実を明らかにしようと努力する姿は感動的だ。」(野中広樹氏)

「原爆というものをより身近に感じる事ができたい機会でした。広島では8月6日登校ということすら知らず、ただただ普通に、夏休みだ、お盆だと過ごしていた自分が恥ずかしいです。もっと何かを伝えられる、知る努力をすべきだと思いました。」(17才・男性)



(舞台写真2枚)
撮影:V-WAVE

秋田県・土方与志 記念
青年劇場

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-9-20 問川ビル4F
TEL 03(3352)6990 FAX 03(3352)9418

info@seinengekijo.co.jp

http://www.seinengekijo.co.jp/

「あの夏の絵」仙台公演

2018年 7月6日(金) 〈昼の部〉14:00 / 〈夜の部〉18:30

仙台市福祉プラザ ふれあいホール

チケット代: 大学生以下 = 1,000円
30歳以下 = 2,000円
一般 = 3,500円

◎未就学児のご来場はご遠慮ください。
◎一般以外のお客様には、年齢を確認させていただきます場合があります。
◎駐車場の台数が限られています。できるだけ、公共交通機関でお越しください。

後援

宮城県・宮城県教育委員会
仙台市・仙台市教育委員会
仙台市市民文化事業団
宮城県原爆被害者の会
河北新報社
仙台放送 ミヤギテレビ
KHB 東日本放送 TBC 東北放送

主催

「あの夏の絵」上演実行委員会

[連絡先] 〒981-8002 仙台市泉区南光台南2丁目11-44
武井あおい TEL 090-2978-2192 FAX 022-771-5023

上演成功のために賛助会・実行委員・宣伝その他
ご協力いただける方を募集しています。
左記までお問合せください。